

お客様各位

2008年12月10日

白山工業株式会社

## うるう秒調整時の挙動(1) 計測機器

LS-7000 LS-7000XT LS-8000SD

LT8500 LS-8000SH LS-8000WD(連続観測版・トリガ版)

地震・火山・振動計測デジタイザ LS-7000 / LS-7000XT

うるう秒調整によるハングアップは発生しません。

LS-7000、LS-7000XT はうるう秒に対応しております。

今回のうるう秒は2009年1月1日 8:59:59の後ろに1秒挿入されます。

08:59:59 → 08:59:60 → 09:00:00 → 09:00:01 . . .

高精度構造探査ロガー LS-8200SD

うるう秒調整によるハングアップは発生しません。

記録データはうるう秒を考慮した測定データ数となります。(問題なし)

今回のうるう秒は1秒挿入されますので、1秒多いデータ数となります。

時刻校正結果は、うるう秒調整以降1秒ずれることとなります。

正時の時刻校正も、時刻校正終了タイミングがうるう秒調整後の場合は記録が1秒ずれます。

うるう秒以降に始まる測定スケジュールでは、その開始時の時刻校正によって正常動作となります。

※LS-8200SDは、時刻誤差が1msec以上発生した場合には調整はせず、

それ以降の時刻校正でずれた値を中心に調整を行います。

仕様上、うるう秒をまたいだ測定でのうるう秒補正は考慮していません。

## 地震・地殻変動観測用データ変換装置 LT8500

うるう秒調整によるハングアップは発生しません。

LT8500 はうるう秒に対応しております。

- ・短周期データの場合（長周期1秒パッケージデータも含む）

2009年1月1日 8:59:59 の後ろに1秒挿入されます。

08:59:59 → 08:59:60 → 09:00:00 → 09:00:01 . . .

- ・長周期データの場合

うるう秒調整の結果、9:00:00 の1分パッケージが重複する可能性があります。

もしくは9:00:00 の1分パッケージのデータの中身が1秒不足する可能性があります。

あります。

## 地震・火山・振動計測データロガー LS-8000SH

うるう秒調整によるハングアップは発生しません。

LS-8000SH はうるう秒に対応しております。

うるう秒調整以降に最初に行われる時刻校正において、うるう秒が反映されます。

うるう秒が反映された後、調整のためにサンプリング数異常や重複データが発生します。反映までの間は記録が1秒ずれることとなります。

液晶表示にも、うるう秒調整以降に最初に時刻校正が成功したときに反映されます。

今回のうるう秒は1秒挿入されますので、時刻校正が成功した時刻の表示が2回繰り返されます。

## 地震・火山・振動計測データロガー LS-8000WD

うるう秒調整によるハングアップは発生しません。

LS-8000WD はうるう秒に対応しております。

- ・連続観測版

アシストにてファイル化する際に、うるう秒のみの1秒ファイルが生成されます。

9:00:00以降は正常なデータファイルが生成されます。

- ・トリガー版（うるう秒をまたいだ場合）

うるう秒調整前後のデータは連続して記録されます。

ただしデータの時刻はうるう秒が考慮されておられません。

うるう秒調整後からイベント終了までは記録が1秒ずれることとなります。

次のイベントからはうるう秒を考慮した時刻のデータが生成されます。